

めぐみイエス・キリスト教会

2024年1月14日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第691号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌343「罪に満てる世界」 p. 546

【交読文】 No.38 詩篇第121篇 p. 910

【賛美Ⅱ】 新聖歌486「雄々しくあれ」 p. 780

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「本当の自由」

【聖書朗読】 **マタイの福音書6章31節～34節(新約p. 11)**

【礼拝説教】 《2024年標題聖句から(神の義とは?)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 (マタイの福音書6章31節～34節)

6:31 ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。

6:32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。

6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

6:34 ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。」

●ポイント1.私たちが待ち望む「神の国」とは？

※ヨハネの福音書14章1節～3節「主イエス様の約束」 (新約p.213)

14:1 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、また私を信じなさい。

14:2 私の父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったのでしょうか。

14:3 私が行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたを私のもとに迎えます。私がいるところに、あなたがたもいるようにするためです。」

●ポイント2.「神の義」とは？

※ローマ5章17節～21節「違反と義の行為とは」 (新約p.305上段)

●ポイント3.なぜ「神の国と神の義」を求めなければならないのか？

※第Iヨハネ2章15節～17節「使徒ヨハネの勧めから」 (新約p.479)

2:15 あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。

2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。

2:17 世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。

※第Iコリント9章24節～26節前「使徒パウロの決意」 (新約p.339)

9:24 競技場で走る人たちはみな走っても、賞を受けるのは一人だけだということを、あなたがたは知らないのですか。ですから、あなたがたも賞を得られるように走りなさい。

9:25 競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。

9:26 ですから、私は目標がはっきりしないような走り方はしません。

◎先週の礼拝メッセージ【神の国とその義】

《2024年の「標題聖句」は、マタイ6章33節「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」となります。今回は「神の国」について考えて見ましょう。

国と言う定義には、なくてはならないものが最低二つあります。一つは国民です。そして、もう一つは、統治者である王がいることです。

神の国の王とは、主イエスのことです。主は十字架に掛けられる5日前の「シュロの日曜日」に、イスラエルの王として入場されました。

主イエスが再臨される時、エルサレムを中心とし、千年王国を建設され、世界を統治なされます。人類は始めて、地上において、平和と全き平安に満ちた穏やかな時を過ごすのです。

次に、神の国の民とは、主イエスの十字架によって罪赦され、主を心の王座にお迎えし、み言葉に従う主の弟子たちを指しています。

主の弟子とは、主を愛し与えられた戒めに従う者たちのことです。主は、「互いに愛し合いなさい」と言う新しい戒めを与えられました。神様を愛し、自分を愛し、そして他人を愛する者こそが、神の国の民なのです。また、「神の国」は、もうすでに、到来しています。主はパリサイ人たちに、「見なさい。神の国はあなたがたのただ中にあるのです。」と言われました。そうであるならば、私たちはすでに「神の国」を持っていることとなります。それが「教会」なのです。「二人か三人が私の名において集まっている所には、私もその中にいるのです。」と、主は約束されました。

教会は建物ではありません。主イエスを信じ、み言葉に聞き従う者たちが、集まる場所が教会なのです。主の御名において、一箇所に集うことに意味があるのです。やがて、主は花婿として、花嫁である教会を迎えに来られます。それが栄光の携挙のことなのです。》

お知らせ

※次回は1月21日(日)となり、通常通り行ないます。また、第4主日は、特別メッセージとなり、前回の特別メッセージの続編となります。